



小児の嘔吐症について

大川総合病院 小児科外来

* 知っておきたい基本的知識

(1) 嘔吐の病態生理

小児期には、各種疾患に伴って嘔吐が起きます。嘔吐を起こす刺激は、咽頭・舌根・胃粘膜などから主に発生します。この時、自律神経症状と一緒に伴います。例えば、交感神経症状としては悪心と呼ばれる顔面蒼白・冷汗・頻脈・全身虚脱感・よだれなどが、副交感神経症状としては胃腸の緊張や運動を増大させ、げっぷ・腸管痙攣・排便反射などが起こります。

つまり、風邪でのどが腫れたときや胃腸炎を起こしたときに嘔吐反射として吐き気や嘔吐を伴います。

また、新生児期・乳児期早期には、消化器管の未熟性から生理的に嘔吐する事も多いのです（胃・食道逆流現象）。咳に伴う嘔吐もみられます。

(2) 重篤な嘔吐とは。

頻回の嘔吐により脱水症・全身虚脱をきたしたものの。吐物が緑色の胆汁様あるいは血性・コーヒー残渣様を示すもの。内臓障害（肝胆道系疾患・腎疾患・中枢神経系疾患）に伴うもの。

(3) 嘔吐時の基本的処置

嘔吐の直後では、しばらく絶食期間を置きます。3-6時間ぐらいが目処になります。その後、少しずつ必要最低限の水分と電解質（イオン飲料）を補給し、安静に努めて下さい。鎮吐剤を併用すると効果的です。

注意点

嘔吐時には喉の渇きが強くなり、引き続き飲み物を欲しがります。嘔気が治まる前に与え続けるとその事がますます嘔吐を誘発し、全身状態を悪化させます。

絶食期間を十分にとり、胃腸を休ませたほうが結果として嘔吐を早く鎮めてくれます。

ぐったりして脱水症状を伴うときには輸液が必要です。

早めに小児科へ受診しましょう。

がまんします！

